

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.tachibana.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **株式会社 立花エレテック**
 〒550-8555 大阪市西区西本町一丁目13番25号
 電話：06-6539-2718 FAX：06-6539-8820
<http://www.tachibana.co.jp/>

株主様向け アンケート 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 8159

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <https://www.a2media.co.jp/>
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」
 MAIL: info@e-kabunushi.com



株主通信

第92期 中間報告書
 2020年4月1日 ~ 2020年9月30日

 **株式会社 立花エレテック**
 C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

Electric & Electronics Technology
 立花エレテックは電機・電子の「技術商社」です。

Special Feature

本社1階に「展示場&ラボルーム」オープン!

自動化、省人化、見える化を体感・体験できる環境を整えました。

名称は「Tachibana Smart Laboratory」(通称TC Smart Lab.)。

コンセプトは『立花が提案するスマートファクトリー』。

展示場にはスマート工場化、既存設備の自動化、省人化、見える化ニーズに応える最新のIoT/M2M機器、産業用ロボット、3Dプリンターを設置しています。お客様が抱える課題の解決に役立つ、具体的な技術提案の場として活用します。

また検証の場であるラボルームを併設しており、導入前のお客様のサンプルワークをはじめとする様々な検証作業ができる環境を整備しています。



自動化・省人化に貢献する 産業用ロボット

三菱電機の垂直多関節ロボット(各センサーや周辺装置を取り付けシステム構築)や川崎重工業のスカラ型人協働型双腕ロボット、スイスABB社の14軸人協働型双腕ロボットを展示しています。

工場のスマート化を実現する IoT/M2M(機械間通信)

無線通信を使った在場管理・画像監視の見える化システム及びスマート工場を実現する最新エッジコンピューティングやネットワーク(MELIPC、EDGE CROSS、CC-LINKIEなど)、スマートグラスによる遠隔作業支援システムなどを展示しています。



新たなモノづくりを推進する 3Dプリンター

新製品の三菱電機金属系3Dプリンター(レーザーワイヤDED方式)、ヤストラタニス社、3Dシステムズ社など5社の樹脂系3Dプリンターを展示。造形や機能の違う複数メーカーの比較検討ができます。また試作開発の場としても使用できるため、導入前検討にも役立ちます。



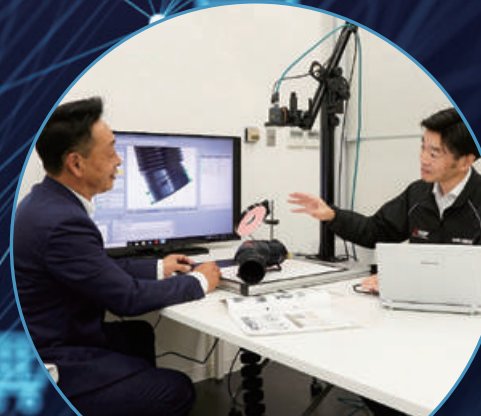
非接触操作を可能にする ハンドジェスチャー体験デモ

当社の得意技である自動化システムとセンシング技術、IoT/M2Mを活用し、操作盤に触れることなく指の本数や位置でロボットを操作するハンドジェスチャー体験型デモ機です。



ラボルーム

お客様のサンプルワークをはじめ、ハンド・ビジョンや各種ネットワーク接続、新製品・新機能の検証及び技術習得トレーニングなどを行います。





新たな需要が立ち上がる時に備えて、 技術商社としての実力を鍛え上げます。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 渡邊 武雄

Q 当中間期の業績の概要についてお聞かせください。

A 新型コロナウイルス感染症の長期化の影響により設備投資が大きく抑制され減収減益。

当中間期の業績は、売上高750億8百万円(前年同期比10.5%減)、営業利益16億45百万円(前年同期比45.5%減)、経常利益17億90百万円(前年同期比43.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益16億67百万円(前年同期比25.6%減)となりました。

この要因につきましては、長引く米中貿易摩擦やオリンピック需要の一段落で減速局面にある中、新型コロナウイルス感染症が経済活動全般に大きな打撃となり、当社グループの主要顧客である半導体・液晶などの電子部品製造装置関連や自動車関連などの製造業においても、設備投資の低迷や先送りに加え、生産調整が長引くなど

業績ハイライト(連結)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
750億 8百万円	16億 45百万円	17億 90百万円	16億 67百万円
前年同期比 10.5%減	前年同期比 45.5%減	前年同期比 43.3%減	前年同期比 25.6%減

停滞感が続いております。

このような状況下において、当社グループは、コロナ禍の中で、「人命の安全・安心」を最優先とした感染防止策を徹底しながら、お客様への商品の供給とサービス活動を継続するとともに、技術商社としてロボットやM2M技術を活用した工場の自動化、省人化ニーズへの対応や3Dプリンターによる新しいものづくり技術の蓄積など、将来につながる投資を積極的に実行してきました。また、本年4月に子会社化した株式会社立花電子ソリューションズについてもグループ内でのシナジー効果も出てきました。こうした取り組みに加えて、コロナ禍への緊急対応を契機として、オンライン・デジタル化など必要投資は積極的に実行しつつも経費の抑制に努めたことで、一定の利益を上げることができました。

なお、当中間期は減収減益という結果になりましたが、売上・利益ともに8月7日に発表した中間期予想を上回る着地となりました。

Q 現在取り組んでいる施策についてお聞かせください。

A 収益力の強化と将来につながる投資を実行しています。

新たに子会社化した立花電子ソリューションズとともに事業拡大へ

半導体デバイス事業のさらなる収益力の強化を目的として、当社グループに新しい仲間を迎えました。八洲電機株式会社から同社子会社八洲電子ソリューションズ株式会社の全株式を譲り受け、「株式会社立花電子ソリューションズ」として子会社化したものです。販売先の重複が少なくマーケットの拡大・増収が見込まれることに加え、互いの得意分野で技術補完によるソリューション提案力が強化できると判断しました。また、FAシステム事業や施設事業とのシナジー効果を発揮させることで、業績向上につなげていきます。

「ロボット、3Dプリンター」体験から商談へと導く「展示場&ラボルーム」を開設

将来の日本のものづくりにおいて極めて重要な役割を果たすのがロボット、3Dプリンターです。2018年は本社にショールームを開設しましたが、今年からこれを「展示場&ラボルーム」として拡大しました。ロボット、3Dプリンターによる自動化、省人化、見える化が体感・体験でき、サンプルワーク検証やネットワーク接続検証もできる施設です。3Dプリンターについては、普及が進まないのは「本当に役に立つのか」「現場で使いこなせるのか」という懐疑的なお客様が多いことにあります。であるならば、当社に来て実際に使って試していただくという思いで「展示場&ラボルーム」としました。3Dプリンターなら、必要な部品はその都度「出力」することで在庫コストを削減することも可能です。そんな新しい発想も提案し、日本の製造業が抱える課題の解決に貢献していきたいと考えています。

オンライン・デジタル化で業務の合理化・効率化を推進

売上の伸びに伴いバックオフィスの業務量が急増したことから、ここ数年でIT化による業務の効率化を進めてきました。そこにコロナ対応が急浮上し、平常時ではありえないスピードで一気にWeb会議やテレワーク環境が整い

ました。また、IT機器導入によるバックオフィスの効率化とテレワークの推進は、無駄な業務のあぶり出しにも効果があり、今後はさらにオンライン・デジタル化を推し進め、業務の合理化・効率化を行い利益生産性の向上を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、消費と生産の停滞による製造業の設備投資低迷が、下半期にかけても続くものと思われます。コロナ禍の収束時期も含め、経済活動の本格的な回復については現時点では予測困難な状況ではありますが、当社グループは、新たな需要が立ち上がってくるその時に備えて、技術商社としての実力を鍛えぬくことに最大限注力していきます。

Q 株主還元についてお聞かせください。

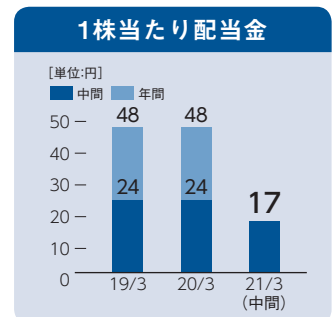
A 中間17円配当及び長期保有株主様への優待増額を実施。

株主の皆様に対する利益還元につきましては、将来の経営環境の変化に対応できるよう財務体質の強化と事業拡大に必要な内部留保の充実を図りながら、安定配当をベースとして業績に裏付けられた適正な利益還元を行う方針であります。

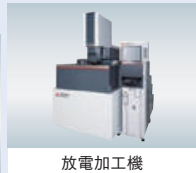
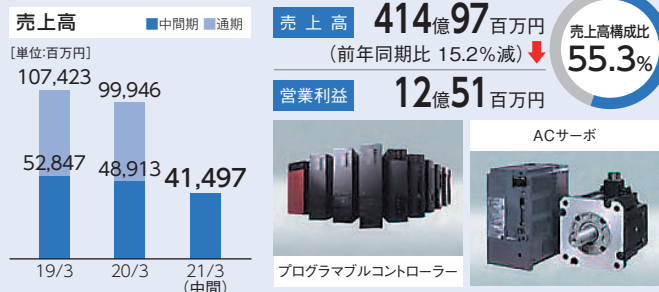
当期の中間配当金は、1株当たり17円とさせていただきましたが、期末配当金につきましては、今後の業績動向を見極め開示が可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

また、株主優待につきましては、保有株式数と継続保有期間に応じた額面のクオ・カードを6月下旬に発送いたしました。なお、今回から長期保有株主様(3年以上継続保有株主)に対して1,000円分または2,000円分の増額を実施いたしました。

株主の皆様におかれましては、長期的な視点で当社グループの成長を見守っていただきたく、引き続き一層のご支援、ご協力をお願いいたします。



FAシステム事業



FAシステム事業は、自動車関連及び半導体・液晶などの電子部品製造装置関連の設備投資の減退により低調に推移しました。

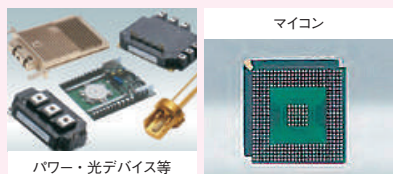
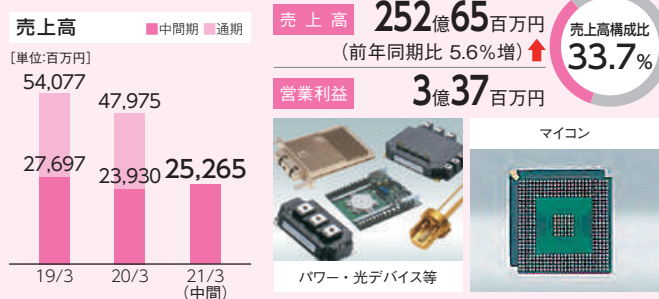
▷FA機器分野は、プログラマブルコントローラー、インバーター、ACサーボ及び配電制御機器が減少しましたが、事業を挙げて取り組んできたセンサーを含めた制御システム機器は物流向けの需要が増加して伸長しました。

▷産業機械分野は、工作機械及びレーザー加工機が減少しました。

▷産業デバイスコンポーネント分野は、タッチパネルモニターやコンピューター周辺装置は減少しましたが、鉄道向けにFAパソコンは伸長しました。

▷鉄鋼プラントは、更新需要の一巡により大きく減少しました。

半導体デバイス事業

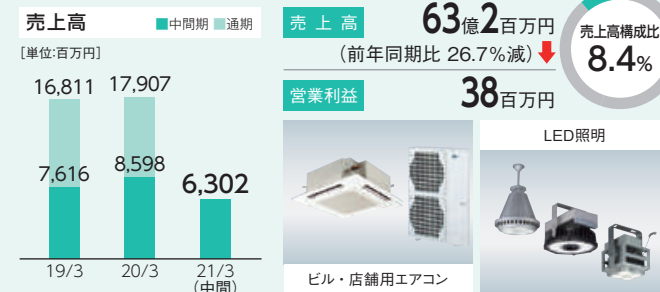


▷国内では、電子部品の落ち込みにより、半導体分野は、マイコン、ロジックIC及びパワーモジュールなどが減少しました。電子デバイス分野は、液晶パネルやメモリーカード、密着イメージセンサーが大きく減少しました。

▷海外では、特に香港、シンガポールにおいて、顧客の電子部品調達の需要に機を逃さず対応できたことで前年並みの水準を確保しました。

▷(株)立花電子ソリューションズ(本年4月に子会社化)が加わったことが業績を押し上げました。

施設事業



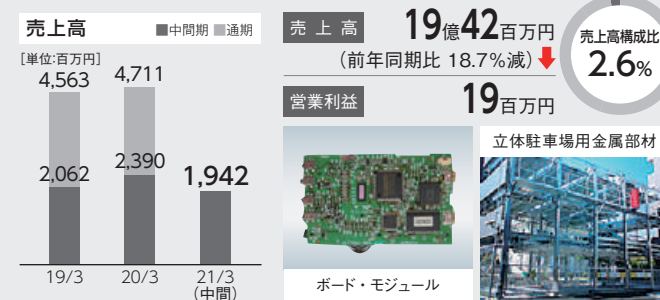
▷夏場の厳しい暑さに加え、特別定額給付金や巣ごもり需要によりルームエアコンが伸長しました。

▷更新需要を受けて、エコキュートや電気温水器などオール電化製品が堅調に推移しました。

▷オリンピック開催予定年で案件が一段落しているところに、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、多くの施設の更新案件が延期や中止になり、店舗用パッケージエアコン、ビル用マルチエアコンなどの空調機器及び昇降機、発電設備、LED照明が大幅に減少しました。

▷コロナ対策を含む短期納期商材の拡販に努めましたが、業績を下支えするまでには至りませんでした。

その他



▷MMS分野は、流通向けラックビジネスは伸長しましたが、立体駐車場向け金属部材は案件の減少により低調に推移しました。

▷EMS分野は、ポンプ用モーターの制御基板など一部に好調な分野もありましたが、プラットホーム可動柵は、コロナ禍の影響を受けて工期延伸となったことから低調に推移しました。

“技術商社”立花エレテックの得意技

～ソリューション成功事例集のご紹介～
<http://tachibana-tokuiwaza.com/>

立花エレテックだからこそ実現できる
ソリューションがあります。

各事業にて技術商社として培ってきた技術力と豊富な実績に基づいたコンサルティングでお客様の課題を解決します。業種や導入効果、ソリューションから絞り込み検索が可能です。是非ご覧ください。



関西「機械要素技術展」と「次世代3Dプリンタ展」に出展

2020年10月7日～9日にインテックス大阪で開催された「関西ものづくりワールド2020」の「第23回機械要素技術展」と「第2回次世代3Dプリンタ展」に出展しました。コロナ禍で来場者の減少が懸念されましたが、両展示会合わせて、1,308人が当社ブースを訪れ、大盛況となりました。技術商社としてロボット、AIを活用した自動化、省人化技術や3Dプリンタ導入による新しいものづくりを紹介することができました。

第23回機械要素技術展

「生産現場の最適化：デジタル化による生産性向上!」をテーマに、メインブースでは「工場まるごとスマート化」のデモを実施。減速機の製造組立ラインのミニチュア工場を造り、5台のロボットを使用して、部品整列・組立・検査・搬送の完全自動化のものづくりを披露しました。人間が有する五感情報（視覚、聴覚、触覚など）を搭載したAI力覚制御ロボットの導入で、小さな部品の組み込みやねじ締めなど、細かな作業ができるようになりました。また、実際の工場を3Dスキャンして作成した点群データの映像をモニターに映し出し、デジタルシミュレーションの様子を再現。既存設備/装置を含めた検証や、工場内の一部設備入れ替えのシミュレーションができるなど、工場レイアウト設計にも役立つことをアピールしました。



第2回次世代3Dプリンタ展

「FA現場・自動化ラインと3Dプリンタをつなげます!」をテーマに、商社ならではの複数メーカーの金属・樹脂の3Dプリンタを展示するとともに、FA現場を熟知している「技術商社」としての3Dプリンタ導入の提案を行いました。今回、展示の目玉は、西日本初出展の三菱電機製「レーザーワイヤDED方式金属プリンタ」、高速・高品質な造形を実現できる大型の金属プリンタで圧倒的な存在感で注目を集めました。他にもストラタシス社や3Dシステムズ社など複数の樹脂系3Dプリンタを展示し、造形の違いや機能などを比較できるようにしました。また、今までの金属製品を3Dプリンタで作成した樹脂製品に置き換えたものが現場で耐えられることを実証する「耐久性テスト」を三菱電機のロボットを使って実演しました。



■ 四半期連結貸借対照表(要旨) (単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2020年9月30日現在)	前期末 (2020年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	83,585	88,422
現金及び預金	18,719	17,117
受取手形及び売掛金	47,859	57,190
たな卸資産	14,906	11,692
その他	2,101	2,423
固定資産	27,596	25,009
有形固定資産	5,152	5,201
無形固定資産	502	431
投資その他の資産	21,942	19,377
資産合計	111,182	113,432
負債の部		
流動負債	35,370	41,013
支払手形及び買掛金	28,003	33,183
短期借入金	2,078	1,548
その他	5,289	6,282
固定負債	3,188	2,452
長期借入金	55	71
繰延税金負債	—	1,421
退職給付に係る負債	712	652
その他	2,421	307
負債合計	38,558	43,466
純資産の部		
株主資本	66,637	65,575
その他の包括利益累計額	5,985	4,390
純資産合計	72,623	69,966
負債純資産合計	111,182	113,432

■ 四半期連結損益計算書(要旨) (単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	前第2四半期(累計) (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	75,008	83,833
売上総利益	9,921	11,531
販売費及び一般管理費	8,275	8,510
営業利益	1,645	3,021
経常利益	1,790	3,157
税金等調整前四半期純利益	2,186	3,248
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,667	2,242

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	前第2四半期(累計) (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	3,722	736
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,187	△1,707
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,379	△998
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△81	△85
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	74	△2,055
現金及び現金同等物の 期首残高	15,756	13,638
現金及び現金同等物の 四半期末残高	15,831	11,582

株式の状況 (2020年9月30日現在)

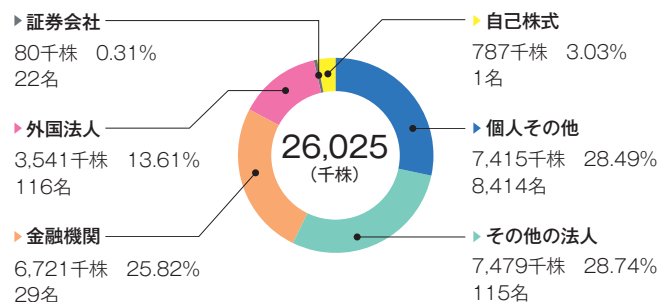
発行可能株式総数	96,000千株
発行済株式総数	26,025千株
株主数	8,697名

大株主

株主名	持株数	持株比率
三菱電機株式会社	1,921 (千株)	7.61 (%)
株式会社サンセイテクノス	1,478	5.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,171	4.64
立花エレテック従業員持株会	1,138	4.51
QUINTET PRIVATE BANK (EUROPE) S.A. 107704	1,086	4.31
株式会社三菱UFJ銀行	1,082	4.29
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	827	3.28
株式会社きんでん	754	2.99
株式会社ノーリツ	742	2.94
日本生命保険相互会社	471	1.87


(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 当社は、自己株式787千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (2020年9月30日現在)



(注) 千株未満は切り捨てて表示しております。

会社概要 (2020年9月30日現在)

商号	株式会社 立花エレテック	
英文社名	TACHIBANA ELETECH CO.,LTD.	
創業	1921年(大正10年)9月1日	
設立	1948年(昭和23年)7月12日	
資本金	58億74百万円	
従業員数	901名(連結1,458名)	
株式上場	東証一部	
ISO取得	品質マネジメントシステム ISO9001 JQA-QMA10303 環境マネジメントシステム ISO14001 EMS693431 情報セキュリティマネジメントシステム ISO27001 IS 509430	

取締役・監査役・執行役員 (2020年9月30日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	渡邊 武雄	常務執行役員	高見 尚志
取締役 専務執行役員	山口 均	執行役員	米田 浩
取締役 専務執行役員	高見 貞行	執行役員	植田 裕和
取締役 常務執行役員	布山 尚伸	執行役員	多田 満
取締役	生田 誠	執行役員	松浦 良典
取締役	辻川 正人	執行役員	城下 雅紀
常勤監査役	松橋 澄	執行役員	永安 悟
監査役	大谷 康弘	執行役員	佐野 博行
監査役	塩路 広海		

事業所 (2020年9月30日現在)

本社	大阪市西区西本町一丁目13番25号	営業所	東北(宮城県)
支社	東京(東京都)、名古屋(愛知県)		
支店	東関東(茨城県)、北関東(埼玉県)、神奈川(神奈川県)、三河(愛知県)、東海(愛知県)、北陸(石川県)、三重(三重県)、滋賀(滋賀県)、南大阪(大阪府)、神戸(兵庫県)、姫路(兵庫県)、広島(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県)		

関係会社 (2020年9月30日現在)

国内	海外	
研電工業株式会社	立花オーバースーズホールディングス社	中華人民共和国(香港)
株式会社立花宏和システムサービス	本社(兵庫県尼崎市)	シンガポール
株式会社大電社	本社(大阪府浪速区)	中華人民共和国(香港)
株式会社立花デバイスコンポーネント	本社(東京都港区)	台湾(台北市)
株式会社高木商会	本社(東京都大田区)	立花機電貿易(上海)有限公司
株式会社立花電子ソリューションズ	本社(東京都港区)	支店: 北京、深圳 営業所: 武漢、大連、青島
		タイ王国(バンコク)
		インドネシア(ジャカルタ)
		マレーシア(セランゴール州)

